

令和5年9月 定例教育委員会々議録

1 日 時 令和5年9月29日(金) 午後1時28分～

2 定例教育委員会

開催場所 会議室301

3 出席委員の氏名

教 育 長	小 林 靖 直	教育長職務代理者	中 野 信 男
委 員	秦 久美子	委 員	斎 藤 純 郎
委 員	小 林 恵 子	委 員	上 田 佳 澄

4 説明のため出席した職員

教 育 次 長	岡 部 清 美	主 幹	大 森 亨
学校 教育 課 長	長 和 俊	社会 教育 課 長	石 黒 昭 彦
統 括 指 導 主 事	小 池 純 一	主任 指 導 主 事	田 中 辰 弥

5 本委員会書記

学校教育課 大塚小由紀 他2名

6 傍聴人

なし

7 会議に付議した事件

会議録の承認

諸報告

(1) 行事報告及び行事予定

(2) 教育長報告

専決処分の報告について

報告第9号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題

協議第6号 新規共催・後援申請について

議 案

議案第43号 燕市不登校児童生徒適応指導教室設置要綱の一部改正について

その他

(1) 令和5年第3回燕市議会定例会（教育委員会関係抜粋）

1) 一般質問の概要について

2) 訴えの提起について

3) 令和5年度燕市一般会計補正予算（第4号）

(2) 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果と分析

8 閉 会

会議録

別紙のとおり

1 開 会 宣 言 午後 1 時 28 分～

2 会議録の承認

全員異議なく、令和 5 年 8 月定例教育委員会々議録は承認された。

3 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定

〈各課長が報告〉

○委員（斎藤 純郎）

9 月 16 日、17 日に開催された燕市・弥彦村児童生徒科学作品展と園児作品展を拝見した。

会場の吉田産業会館大ホールにたくさんの作品が並び、いずれの科学作品も工夫の跡が見られ、力作揃いだった。園児の作品も年齢に応じた作品が並んでおり、成長の過程がわかり目を細めて見させてもらった。

また、青少年のための科学の祭典も同時開催され、NPO 法人をはじめ一般財団法人やボランティア団体の方々からご協力いただき、楽しい催しもたくさんあり、見ごたえのある展示会だった。

ご協力いただいた皆さんに感謝するとともに、今後も作品作りを通して園児、児童の皆さんから科学に関心を持ってもらいたいと願っている。

(2) 教育長報告

〈小林教育長が以下のとおり報告〉

① はじめに

- 燕市・西蒲原郡小学校親善陸上大会を参観した。市内及び弥彦村の全 6 年生が一堂に会する様子は圧巻であった。児童にとっても貴重な経験になったと思う。
- 東京ヤクルトスワローズとの連携事業「燕市 Day」に参加した。統合する松長小学校と小中川小学校の 5、6 年生希望者による「ツバメダンス」が、満員の神宮球場、大きな歓声のなか披露された。忘れられない思い出になったようだ。

② 8、9 月（8 月第 5 週～9 月第 4 週）の行事から

1) 広島平和記念式典派遣事業報告会【8 月 27 日（日）】

各中学校代表 5 名の平和大使が、広島での学び、経験を報告した。自分の言葉で力強く平和の尊さ、大切さを訴える平和大使に頼もしさを感じた。戦争や紛争のない、核兵器のない世界の実現に向けて自分は何ができるのか、多くの参加者の皆様とともに改めて考えさせられた。

2) 燕市・西蒲原郡小学校親善陸上大会【9月12日(火)】

心配された暑さもさほどでもなく開催できた。6年生全員の100m走、クラス対抗リレー、懸命に走る姿に声援を送らずにいられなかった。

3) 燕市・弥彦村児童生徒科学作品展・園児作品展【9月16日(土)】

吉田産業会館で開催された。多くの子どもたちの作品が並び、また、様々な体験ができるブースがあった。観て、体験できる素晴らしい会場に、多くの親子が訪れていた。

4) 燕市 Day (東京ヤクルトスワローズ公式戦)【9月16日(土)】

「つばみちちゃん」とのジャンケン大会に勝ち残った、松長小学校女子児童による始球式で試合が始まった。随時、燕市を紹介する動画なども流れ、燕があふれる試合だった。

5) 燕スイミングクラブ創立50周年記念祝賀会【9月18日(月)】

市長とともに参加した。燕スイミングクラブは、「部活動の地域移行」後の模範的なクラブの姿の一つだと考えている。組織運営や活動方法などを参考にさせていただきたいとお伝えした。

③ 結びに

- さらに授業改革を進めていく。市内には、授業力の高い教員が大勢いらっしゃる。「よい実践例」や「身につけたい授業スキル」を共有していければと考える。できるだけ現場に足を運ぼうと思う。

○委員(小林 恵子)

8月27日の広島平和記念式典派遣事業報告会に参加した。団結力や表現力があり、学んだことの深さが伝わってくる非常によい発表だった。ただ、発表した全員が女子生徒であったことが少し残念であった。学校の代表として参加しているので、選ばれた生徒がたまたま女子生徒であっただけだと思うが、男女が偏らず参加されているとよかったと思う。

4 専決処分の報告について

報告第9号 専決処分の報告について

16件の後援申請について

(No. 1～5、7、9～11、13、14について長学校教育課長が説明)

(No. 6、8、12、15、16について石黒社会教育課長が説明)

## 5 協議題

協議第 6 号 新規共催・後援申請について

1 件の後援申請について

〈No. 1 について石黒社会教育課長が説明〉

○委員（小林 恵子）

14 ページ「その他の共催後援団体の名称」欄に「有」と記載があるが、具体的にはどのような団体があるか。

○社会教育課長（石黒 昭彦）

燕市スポーツ協会を予定している。

○委員（小林 恵子）

17 ページ予算書の支出について、会場借料として「体育館、武道館等」とあるが、先程の説明では、会場は体育館であった。体育館と武道館が一緒になっているという認識でよいか。

○社会教育課長（石黒 昭彦）

燕市分水総合体育館の裏手に武道館が併設されている。体育館と一緒に武道館も使用するということをご理解いただきたい。

審議の結果、全員異議なく協議第 6 号は承認された。

## 6 議案

議案第 4 3 号 燕市不登校児童生徒適応指導教室設置要綱の一部改正について

〈長学校教育課長が説明〉

審議の結果、全員異議なく議案第 4 3 号は原案通り議決された。

## 7 その他

(1) 令和 5 年第 3 回燕市議会定例会（教育委員会関係抜粋）

1) 一般質問の概要について

〈岡部教育次長が説明〉

○委員（小林 恵子）

5 ページ大島議員の質問に対する答弁で、各学校でタブレットを活用し、デジ教科書を使用できるようにしている、とあるが、特別支援学級に在籍しており、読むことに困難を抱えている子どもはすでにデジ教科書を使用しているのか。また、どのくらいの

数の子どもが使用しているのか。

○主幹（大森 亨）

希望する子どもに提供しており、ダウンロードして使用してもらっている。  
使用者数については、把握できていない。

○委員（小林 恵子）

希望すれば、特別支援学級の子どもは誰でもダウンロードして、活用できるという認識  
でよいか。

○主幹（大森 亨）

そのとおりである。

○教育長（小林 靖直）

読むことに困難を感じており、音声での出力が有効であると判断された子どもには申  
請に応じ、デージー教科書を活用してもらっている。

他にいかがか。

○委員（小林 恵子）

小学校では、救命活動を練習として行っているか。

○主幹（大森 亨）

各小学校の実態を把握できていない。

○委員（小林 恵子）

参考までに、市外中学校の体育授業での救命教育で良いと思った例を紹介する。

通常の救命教育は、ビデオを見た後に、何秒間か心臓マッサージをして終了する形が多  
いと思うが、その学校では、教室で誰かが倒れ、それに気づいた生徒がどのように対処す  
るのか、救急車を呼ぶ人やAEDを持ってくる人など、グループの中で各自役割分担をし、  
消防署から学校までの距離から救急車が到着するまでの時間を計算して、その間、交代で  
心臓マッサージを行っていた。先生は救急車の動きを実況し、救急隊が到着するまで心臓  
マッサージをやめないよう生徒に声をかけていた。

生徒たちの感想に、「一人で全てこなすのは無理」、「3・4人で交代しながら心臓マッ  
サージをして、何とかつなげることができた」、「救急車が到着するまでの間、これだけの  
ことをやらないと人が助からないのか」と、実践により救命の大変さを実感できており、  
非常によい授業だと思った。

- 2) 訴えの提起について
- 3) 令和5年度燕市一般会計補正予算(第4号)  
〈長学校教育課長が一括で説明〉

○委員(齋藤 純郎)

この案件については、市として解決に向けて努力を続けてきたわけだが、問題解決が難しいものであった。9月議会において、同意をいただけたので、早期に解決できるよう願っている。現在の我々も確実な事務処理を行うという基本を忘れてはいけない。

(2) 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果と分析  
〈田中主任指導主事が説明〉

○委員(小林 恵子)

子どもへのアンケート結果で「授業の内容がよく分かる」という回答が多いのに対し、学力の数値が上がってこないことについて、実際に指導主事が学校訪問する中で、その原因と思われることはあるか。

私が様々な学校の授業を見て感じることは、学力の低い学校または学級の子どもを相手にする時、先生は、授業が上手くいくようにヒントをあらかじめ用意して、子どもに与えている。子どもにとっては非常にやりやすく、分かった気になってしまっている。対して、学力を伸ばしている学校の先生は、子どもに答えを教えることはせず、質問して考えさせて、自分で考える癖をつけさせている。

子どもに対して手を差し伸べすぎるのではなく、分からないところを子どもにどう調べさせて、答えさせていくかが先生の授業力だと思う。

○主任指導主事(田中 辰弥)

国語の授業を例としてあげると、学力の向上している教室では、教科書を読む際にただ文章を流して読むのではなく、先生が途中で子どもたちを立ち止まらせて、言葉の意味や定義などを考えさせるような働きかけをしている様子が見られる。そのような働きかけを継続していくことが大切だと感じる。

○委員(小林 恵子)

資料を見ると、表現力は育っているが基本的な知識が身につけているかが心配である。

指導主事がおっしゃられたとおり、言葉の意味などをスルーしてはいけない。しっかりと子どもたちを立ち止まらせて、考える癖をつけることが大事だと思う。

また、英語の授業を見ていると、デジタル教科書を見せ、リピートさせて終わりという、子どもに何も考えさせない授業をやっているところもあり、非常に問題である。表現力に力を入れることも大事だが、まずは、基礎をしっかり固めたうえで表現力を学ばせることが必要だと思う。

○委員（中野 信男）

小林委員のおっしゃるとおり、自分で考えて答えをださないと学力はついていかないと。学校では、ヒントをもらったり、過去と同じような問題が出題されれば、上手く乗り越えられるかもしれないが、自分で考えなければ、本当の知識として身につけていかない。ぜひ、これからどのように指導していけばよいかを燕市で考えていただきたい。

また、全国学力・学習状況調査の正答数分布のグラフについて伺いたい。グラフの形を見ると、小学校の国語・算数、中学校の国語は、正答数が高い方に山がきており、中学校の数学は、半円のような形のグラフになっている。また、中学校の英語は、正答数が低い方に山がきている。これらのグラフの形には意味があると思うが、なぜこのような結果になったか考えられることはあるか。

○主任指導主事（田中 辰弥）

グラフの右側に山がある小学校の国語・算数、中学校の国語については、出題された問題に対して概ね理解している子が固まっている状況と捉えている。また、中学校の数学のグラフについては山が真ん中にあり、かつ、でこぼこした形であることから、個々の学力の差が開いてしまっている状況にあると捉えている。中学校の英語については、グラフの左側に山があり、出題された問題に答えられない子が多くいるので、全体的に英語の力が身につけていない状況があるのではないかと思う。

○委員（中野 信男）

中学校の結果を見ると英語は文科省が期待する実力がついていないことがわかる。英語の実力は海外に行くときによく感じられる。例えば、一対一の会話や決まった会話はできるが、周りの音が騒がしい環境や丁寧に話せない状況にあったときに英語の実力が出てくる。世界に通用するには、英語の実力をつける必要がある。ぜひ、燕市方式で、英語の実力が少しでも良くなるようにしていただきたいと思う。

6 閉 会 午後 2 時 45 分

燕市教育委員会会議規則(平成18年燕市教育委員会規則第2号)第17条第2項の規定により会議録に署名する。

令和 5年 10月 26日

教 育 長 小林靖直

教 育 委 員 中野信男

教 育 委 員 秦久美子

教 育 委 員 斎藤純郎

教 育 委 員 小林恵子

教 育 委 員 上田佳澄

会議録作成職員 斎藤千華

